

問1 室町時代に、幕府が許可を与えた商船が中国の明と行った貿易を何という？

1. 朱印船貿易                      2. 遣唐使                      3. 北前船貿易                      4. 勘合貿易

問2 京都の北朝と吉野の南朝の対立を終わらせ、南北朝を合体させた室町幕府の第3代将軍は誰？

1. 足利義詮                      2. 足利直義                      3. 足利尊氏                      4. 足利義満

問3 15世紀後半、細川氏と山名氏が対立し、将軍の跡継ぎ問題などが絡んで京都で起こった大規模な内乱を何という？

1. 応仁の乱                      2. 明応の政変                      3. 観応の擾乱                      4. 享徳の乱

問4 室町時代、琵琶湖の水運と連携し、大津や坂本などの港から京都へ物資を陸上輸送していた運送業者を何という？

1. 問丸                      2. 馬借                      3. 車借                      4. 座

問5 世阿弥が追求した、能の基礎となる芸術的な美しさを何という？

1. 幽玄                      2. 数寄                      3. さび                      4. わび

問6 観阿弥とともに能を大成させ、能楽の基礎を築いた人物は誰？

1. 雪舟                      2. 観阿弥                      3. 一休宗純                      4. 世阿弥

問7 室町時代に中継貿易で日本や東南アジアと活発にやり取りをしていた国はどこ？

1. タイ                      2. 中国                      3. フィリピン                      4. 朝鮮

問8 二条河原の落書など、中世の日本の文芸や歌で好まれた「七・五・七・五」を基調とするリズムを何といひますか？

1. 七五調                      2. 五七調                      3. 五五調                      4. 七七調

問9 15世紀、琉球王国を建国する前に、それまで分立していた北山・中山・南山の3つの勢力を統一したことを何という？

1. 三省                      2. 三職                      3. 三山                      4. 三成

問10 現在の石川県である加賀国で、浄土真宗の門徒らが守護大名を倒した一揆が起こったのは何年ですか？

1. 1488年                      2. 1582年                      3. 1467年                      4. 1336年

問11 室町時代、農民たちが「寄合」を通じて村の運営を独自に行うようになった村の組織を何というか？

1. 検地                      2. 年貢                      3. 寄合                      4. 惣村

問12 浦島伝説が収められている、奈良時代に編集された日本最古の歌集を何という？

1. 万葉集                      2. 新古今和歌集                      3. 古今和歌集                      4. 拾遺和歌集

問13 日明貿易などで繁栄した自治都市「堺」は、現在の何という都道府県に位置している？

1. 京都府                      2. 大阪府                      3. 福岡県                      4. 神奈川県

問14 首里に築かれ、琉球王国の政治・外交・文化の中心として栄えた拠点を何といひますか？

1. 安土城                      2. 首里城                      3. 姫路城                      4. 大阪城

問15 足利義政の後継者争いから京都で勃発した、大規模な内乱は何年？

1. 1543                      2. 1467                      3. 1477                      4. 1333

問16 建武の新政の混乱を批判し、1334年に京都の二条河原に立てられた落書で、その当時の混乱を招いた天皇は誰ですか？

1. 後白河天皇                      2. 後鳥羽天皇                      3. 後醍醐天皇                      4. 後深草天皇

## 答え合わせ・解説

問1	答え 4 勘合貿易	足利義満が明の皇帝と交渉し、正式な貿易が始まりました。日本側は証明書である「勘合」を持つ船のみが貿易を許可され、日本からは刀剣や工芸品が、明からは生糸や「永楽通宝」などの銅銭が輸入されました。
問2	答え 4 足利義満	室町幕府の第3代将軍である足利義満は、力のある守護大名を抑え込むと同時に、1392年に南朝の天皇から北朝の天皇へ位を譲らせる形で南北朝を合体（統一）させました。
問3	答え 1 応仁の乱	応仁の乱は1467年に始まり、約11年間にわたって京都を舞台に繰り広げられた戦いです。この戦いにより、京都の町は荒廃し、幕府の権威は地に落ちました。守護大名が領国を留守にしていたため、各地で下剋上の風潮が強まりました。
問4	答え 2 馬借	馬借（ばしゃく）は、馬の背に荷物を載せて運送を行う業者です。琵琶湖などの水運と組み合わせて、港から京都へ物資を運ぶ重要な役割を果たしました。当時の物流の主役の一つであり、運送を通じて経済的に大きな影響力を持つようになりました。
問5	答え 1 幽玄	「幽玄」とは、単に美しいだけでなく、言葉では言い表せないほど深みのある美しさや、静寂の中にただよぶ気品を指す言葉です。世阿弥は、単なる娯楽だった猿楽を、この「幽玄」を追求することで、高尚な舞台芸術へと高めました。
問6	答え 4 世阿弥	世阿弥は、父である観阿弥の才能を受け継ぎ、室町幕府の将軍足利義満に認められました。彼は能の理論を記した『風姿花伝』を著すとともに、多くの優れた脚本を書き上げ、能を大衆的な芸能から芸術性の高い舞台芸能へと完成させました。
問7	答え 2 中国	中国は当時、非常に進んだ産業や文化を持っており、日本を含む諸国から製品が求められました。琉球王国などは、この中国と日本、あるいは東南アジア諸国の間に立って仲介役を果たすことで、大きな経済的恩恵を受けました。この物流のつながりが、当時のアジアの経済圏を支えていました。
問8	答え 1 七五調	二条河原の落書は、当時の世相に対する痛烈な批判を、当時の人々にとって馴染み深く覚えやすい「七五調」のリズムで表現しました。これにより、多くの人々に内容が伝わり、政治的な批判が庶民の間にまで浸透しました。
問9	答え 3 三山	15世紀の初め、中山の王であった尚巴志が、この3つの勢力を統一しました。これにより、島全体を統括する「琉球王国」が誕生しました。統一により社会の安定がもたらされ、後の東アジアにおける活発な中継貿易の拠点となる地盤が築かれました。
問10	答え 1 1488年	1488年、本願寺の教えによって強く結びついていた門徒らは、加賀の守護であった富樫氏に対して大規模な一揆を起こしました。これにより守護を追放し、武士の支配から脱却しました。
問11	答え 4 惣村	惣村は、村人が共同で地主や守護大名に対抗するための組織でした。村人たちは「寄合」を開いて村のルールを決めたり、用水路の管理を行ったりしました。また、守護大名が過度な年貢を取りに来たときには、団結して抵抗する権利も持っていました。これにより、中世の村は高い自主性を持つようになりました。
問12	答え 1 万葉集	万葉集は、天皇や貴族だけでなく、防人や名もなき人々が詠んだ歌を約4500首も集めた巨大な歌集です。その中には浦島太郎の原型となる物語が含まれており、後世の文学や絵入りの物語に多大な影響を与えました。
問13	答え 2 大阪府	堺は大阪湾に面した港町であり、その立地の良さを活かして海外との交易で巨大な富を蓄積しました。特に日明貿易が盛になると、堺の商人たちはこの利益を独占し、政治的にも強大な力を持ちました。
問14	答え 2 首里城	首里城は琉球王国の王宮として建設され、政治、外交、文化の中心となりました。城のデザインには中国や日本の建築様式の影響が見られ、琉球独自の美学と融合した独特な構造をしています。
問15	答え 2 1467	この年（1467年）に、京都を舞台として守護大名同士の激しい武力衝突が始まりました。これにより京都の町は荒廃し、幕府の統治能力は著しく低下しました。幕府の権威を揺るがす大きな出来事となり、日本全国の武士たちを巻き込む戦乱へと発展しました。
問16	答え 3 後醍醐天皇	しかし、この政治は急進的な改革が多く、武士の恩賞問題などが解決されなかったため、多くの不満を招きました。1334年に京都の二条河原に立てられた落書は、この無秩序な世相や公家による政治への批判を、七五調で風刺したものです。